

「ありがとう」を伝えたい

西門川小学校 五年 池田 翔安

昨年の春、「令和元年」「令和初」という言葉があふれ、新しい時代が始まりました。そして、僕たちの西門川小学校では、「西門川小学校最後」という言葉が飛び交い、閉校に向けての一年がスタートしました。

ぼくは、西門川小学校最後のたった一人の五年生です。六年生も四人しかいないので、五人で協力して、この西門川最後の一年を盛り上げて、西門川小学校の最高のフィナーレを自分たちの力で作りたいと思いました。

最後の運動会、最後の米作り、最後のふれ合い活動、最後の学習文化発表会、全ての行事が最後だと思うと、これまで以上にがんばったり楽しんだりすることができました。だからこそ、行事を終えた後には、これまでに感じたことがないほどの達成感を感じることもできました。いよいよ残された行事も、少ししかありません。でもぼくは、さびしいという気持ちは全くありません。それは、学校は閉校するけれど、全てがなくなるわけではなく、閉校をむかえるからこそ、気付けたことがたくさんあったからです。

例えばこの一年間、いろいろな行事の度に、地域の方々が、ぼくたちのことを大切にしてくださいってしていることに気付きました。運動会で一緒に走ったり踊ったりしてくださいだった方々、忙しい中で一緒に田植えや稲刈りをしてくださいだった方々、おいしいそうめん流しにスイカ割りの準備をしてくださいだった松瀬の方々、グラウンドゴルフをしてくださった上井野、大内原の方々、竹馬や風車作りなど昔の遊びを教えてくださいだった三ヶ瀬の方々、本当にありがとうございました。また、行事だけでなく、毎朝ぼくたちのことを見守

ってくださいました竹田さん、まさよさん、ありがとうございました。ぼくは、地域の方々が、ぼくたちを大切に思ってくださいることを知っているから、学校が楽しいことを知っているから、希望をもって五十鈴小学校に行くことができます。きつと門川町が優しい町だから、どこの学校に行っても大丈夫だと思います。

でも、閉校で心配なこともあります。それは、西門川小学校の校舎が、このままだれにも使われなくなって、古くなっていくのかと思うと、さびしくなってしまう。

ぼくたちは今年、景観教室という学習をし、西門川の景観を見て回りました。勝蓮寺、黒木邸、五十鈴川、石垣など、学校の周りには素晴らしい景観が広がっていることに気付きました。そして何より、ぼくたちが学んだ学校の校舎、運動場がすばらしい景観だと思います。だから、閉校した後も、学校に地域の方々が集まったり、ぼくたちが遊びに行ったりできる場所になってほしいです。

そこで、ぼくは、学校の跡地利用について考えてみました。例えば、西門川の自然のものを食べるができるお店にするのはどうでしょうか。教室で給食を食べるように、机を合わせてランチを食べることができたら、きつと楽しいと思います。料理は、献上米にもなったおいしいお米やイノシシ、シカ、鮎や山太郎ガニなど、季節によっていろいろなものを食べることができたら最高です。もちろん旬の野菜もおいしくいただきたいです。

また、教室を使って、大人に向けた授業や、休みの日に子どもたちを集めて授業を開いたらどうでしょうか。英会話教室やパソコン教室などもできたらうれしいです。さらに、学校で教えてくれる先生は、門川町の方がいいと思います。ぼくたちに米作りや昔の遊びを教えてくださいだった方々が先生になったり、五十鈴川の魚を使って郷土料理教室を開いたりしたら楽しそうです。

ぼくが福岡から転校してきて、西門川の自然に感動したように、いろいろな場所から西門川に来たら、この自然のすばらしさにきつと感動してくれると思います。だから、西門川の自然を見て回る授業もしてほしいです。

ぼくは、将来、父の仕事を手伝いたいと思っています。ぼくの父は西門川で、太陽光パネルやエアコンの設置などの仕事をしています。だから、ぼくも西門川に住んで、一緒に働きたいです。そして、大人になったら、みんなに太陽光利用の良さや電気のことについて教えてあげたいです。

いよいよ閉校式まであと一ヶ月です。

「閉校するのは悲しいけれど、学校の最後を見届けることができるのは、ひよつとしたら幸せなことかもしれない。」

と、先生はおっしゃいました。閉校式は、これまで多くの卒業生を送り出してきた西門川小学校の卒業式だと思います。だから、これまでの感謝の気持ちをこめて、ぼくたちの手で最高の卒業式を開いてあげたいです。たくさん勉強させてくれてありがとう、たくさん遊ばせてくれてありがとう、たくさんのお出合いをありがとう、ぼくは、西門川小学校に感謝し、これからもしっかりとがんばります。

---